

うことを、そして努力をすれば実現できるということ、特に鳥取に住んでいる若い人にアドバイスをいただけたらと思います。

**谷口さん** 私の仕事に関してのことしか言えませんが、どういふものでもいいので、「自分が好きでやっていけるものをどう見つけるか」ということと、「好きなものを見つけて欲しい」ということですね。どんな障害があっても、好きであれば乗り越えられるのではないかというのが、漫画を描き続けていて感じたことですから。

**ますますの活躍に期待**

**竹内市長** 今後の作品と鳥取との関わりを、どうしても期待してしまいますが、例えば、



郷里の鳥取砂丘を題材に考えられるものはないかなど…。

**谷口さん** 考えたいと思いますが、やはり漫画の場合は、物語をしっかりとしたものにしたくない、なかなか評価が得られません。鳥取砂丘を舞台にしてどのような物語が描けるかこれから考えてみたいと思います…。今、私が興味をもっているのは、鳥取の作家である「尾崎翠」さんです。その人の伝記とはいかないかもしれませんが、その人と砂丘を絡めたものができればいいなと考えています。

**竹内市長** なるほど。そうですね。尾崎翠さんは映画にもなりましたし、鳥取でも関心が高いですね。まだ、全国的にはそう知られていないように思います。

**谷口さん** そうですね。まだマニアックな段階だと思います。かなり熱烈なファンが多いですよ。

**竹内市長** それから、鳥取市民のみなさんと触れ合いの機会や、接点を持ち続けていただきたいと思つていのですが…。特に子どもやこれから自分

の人生を歩みだそうとしていいる高校生、大学生に、谷口さんのいろんなお話を聞かせてもらえたらと望んでいます。

**谷口さん** 漫画を描いてきた自分の体験みたいなのが、何かの役に立てばお話ししたいと思つていますが、何しろ、そういうことが苦手なものですから…。機会があれば体験みたいなのを話してみたいと思いますけれど。

**竹内市長** 「父の暦」も「遙

かな町へ」も、読む者の心に強く訴えかける深い内容をもった作品で、谷口さんの最高傑作だと思います。これからも作品を通じて、谷口さんの思いを語りかけていきたいなと思います。

**谷口さん** いつも鳥取のこと意識しています。この「父の暦」を描いているときにも感じましたけど、郷里があるということの幸せは、鳥取に限らずいろんな地方から出て

くる人たちに感じて欲しいですね。本当に鳥取が故郷だったことを、誇りに思っています。

**竹内市長** どうも今日はお忙しいなか、貴重なお話ありがとうございました。

この対談の様子は、八月十二日（火）～十八日（月）午前九時三十分から、午後九時三十分から「いなばぴよんぴよんネット」で放送します。

**谷口さんプロフィール**

昭和22年鳥取市（元魚町二丁目）生まれ。鳥取商業高等学校を卒業後、県外で就職。仕事のかたわら漫画を書き始め、昭和46年「喰れた部屋（ヤングコミック）」で漫画家としてデビュー。以来、多くの作品を発表し現在に至る。その作品は、国内はもとよりアメリカ、フランス、スペインなど海外でも出版され、国際的にも高い評価を得ている。



■おもな受賞作品

- 昭和50年 「遠い声」 「第14回ビッグコミック賞 佳作」
- 平成4年 「犬を飼う」 「第37回小学館漫画賞 審査員特別賞」
- 平成5年 「『坊っちゃん』の時代」 「第12回日本漫画家協会賞 優秀賞」
- 平成10年 「『坊っちゃん』の時代」 「第2回手塚治虫文化賞 マンガ大賞」
- 平成11年 「遙かな町へ」 「第3回文化庁メディア芸術祭 マンガ部門優秀賞」
- 平成13年 「父の暦」 「第28回アングレーム国際漫画 フェスティバル（フランス）全キリスト協会賞」
- 平成13年 「神々の山嶺」 「第5回文化庁メディア芸術祭 マンガ部門優秀賞」
- 平成14年 「父の暦」 「バルセロナ国際コミック・フェア（スペイン）読者が選ぶ最優秀漫画賞」 「Gijn 国際コミック・フェア（スペイン）ハックスチャー Haxtur 最優秀外国長編漫画賞」 「マドリード国際コミック博覧会（スペイン）最優秀外国漫画賞」
- 平成15年 「遙かな町へ」 「第30回アングレーム国際漫画 フェスティバル（フランス）ベストシナリオ賞・優秀書店賞」